

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： スポーツ教育センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 ・教育の実施体制：健康・スポーツ科学部会の授業に関するFDを行う。また、岡山県教育庁および県下の小・中・高校と連携し、支えるスポーツ演習の拡大をはかる。 ・教育方法・内容：健康・スポーツ科学部会にて、するスポーツ演習におけるWebClass教材の見直しと開発を推進する。また、支えるスポーツ演習を拡充のため、学生による高校でのスポーツ指導を試行する。 ・教育の成果：WebClass教材の大幅な改訂・追加を行う。また、支えるスポーツ演習の高校派遣およびスポーツ指導の改善とカリキュラム作成と教材開発を行う。	健康・スポーツ科学部会におけるFD活動は前期および後期に2回実施した。またe-Learning(WebClass)教材およびテストの改訂・追加は半期毎に行った。支えるスポーツ演習に関する教材は、要項および教材を岡山県教育庁保健体育課と協働で作成し、印刷した。次年度においても使用することとした。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・非常勤講師を含めた健康・スポーツ科学担当者のFD活動を年2回行う。 ・WebClass教材およびテストの改訂・追加を、半期毎に行う。 ・支えるスポーツ演習に関する教材等を印刷する。	
②研究領域	
②-1 目標 ・研究水準・成果：熱中症対策に関わる環境測定の継続と学内および地域での熱中症予防研究を推進する。 ・研究実施体制：当センターを中心として保健管理センター、教育学研究科、岡山県および岡山市等との共同研究を推進する。	研究論文は9件発表し、学会等の研究発表は31件行った。その他、著書2件であった。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・研究論文を1件以上発表する。 ・全国学会および研究会における研究発表を4件以上行う。	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標 ・中学・高校において、白桃ダンスの普及をはかる。 ・岡山市保健所と協働で、市民体操の普及と健康づくり活動を推進する。 ・公開講座であるスポーツ講座を推進させる。 ・学内外からのスポーツ相談(メール相談を含む)に対して迅速な対応をはかる。	「白桃ダンス」指導者として本学学生25名を養成した。学校教諭対象の指導講習会は2回開催し、学校での指導は3回であった。「OKAYAMA！市民体操」は指導実践者養成講習会2回、イベント2回、指導者を集めた養成セミナー兼報告会5件を保健所と連携して開催した。スポーツ講座は16回開催し、学内教職員・学生には講座DVDの貸出を26件行った。講演は9件、講習会は13件であった。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・白桃ダンスを指導できる学生を20名程度養成し、中学・高校5校程度に普及・指導活動を行う。 ・OKAYAMA！市民体操普及・指導活動を、健康づくり活動とともに5件程度行う。 ・スポーツ講座を16回開催し、講座DVDの貸し出しを行う。 ・講演及び講習会を年3回以上行う。 ・スポーツ相談への対応および指導を10件程度行う。	
④センター業務	
④-1 目標 ・スポーツ系サークルに対する活動支援を行う。 ・熱中症予防講習会を全サークル対象(文化系サークルを含む)に拡大する。 ・寄付金活用申請に対する迅速な対応と有効活用を行う。	・熱中症予防講習会受講学生は965名であった。これは文化系サークル学生も対象とし、講習会開催を9回から17回に増やしたためであり、昨年度より受講学生数が452名増えた。スポーツ系サークルへの支援件数は用具貸し出しが46件と昨年度より19件増え、スポーツ障害相談は14件であり昨年度より1件減少した。寄付金・スポーツ貢献奨励金はメール会議を活用し迅速に協議・決定ができ、7件を運用できた。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・スポーツ系サークルへの支援件数および熱中症予防講習会の参加者数を、前年比増とする。 ・寄付金・スポーツ貢献奨励金給付に関する要項等を改訂し、迅速に3～5件の運用をはかる。	
【総括記述欄】	
<p>教育領域は目標通り推進することができた。支えるスポーツは実践知教育に繋がる授業であるが、高校との良好な関係が築くことができ、次年度以降も継続・発展できるものとする。研究領域は、新任の吉岡助教の活躍によって目標以上に業績をあげることができた。社会貢献は「白桃ダンス」の普及準備に大学機能強化戦略経費をつけていただき、大いに発展でき、指導体制ができた。次年度以降、さらに普及活動に専念できると思われる。また「OKAYAMA！市民体操」は岡山市保健所と協働で普及活動を実施し、目標以上の普及活動が行えた。次年度の計画もできており、普及活動にさらに専念できると思われる。センター業務はサークル支援として講習会等を目標以上に開催できた。参加学生も増え、次年度も平成26年度を上回る参加者数を確保し、安心安全な課外活動の推進を支援する。寄付金の活用についても迅速に運用できた。</p>	